

目次

第一部

序文	長谷場 健	4
I 3.11 以後の科学技術と自然観		
3.11 以後の科学技術と人間	野家 啓一	8
科学技術と〈農〉—東日本大震災を経て	山村（関） 陽子	17
構造災の社会学—「事務局問題」と責任帰属	松本 三和夫	21
地震・原発・天・鯨—責任とアニミズム的思考	太田 明	32
東日本大震災と宮沢賢治—「順違二面」の自然観・人間観	西郷 竹彦	38
II 3.11 以後の思いとつながり		
3.11 のあと—福島から広島へ 求められる地球時代感覚	堀尾 輝久	46
3.11 後の直接的，間接的被災者カウンセリング経験 —一時系列的に変っていく「必要」の求めに応じて	横湯 園子	53
手の発達のもうひとつの方向—文明の転換のために	平山 満紀	61
III 3.11 以後の文明の転換		
3.11 以後の「新たな出発」の意味 —食・農・共生を軸に新たな社会・文明を展望して	尾関 周二	65
「ポストフクシマ」，そしてポスト日本？ —知性の悲観主義，意志の楽観主義（アントニオ・グラムシ）	シュテッフィ・リヒター 福井 朗子，オブヒュル ス鹿島ライノルト訳	75
人間らしさの生態的基礎—自己家畜化論の再検討のために	木村 光伸	84
IV 3.11 以後，いま総合人間学を問う		
学問としての「総合人間学」の課題—その切り札について	上柿 崇英	93

総合人間学の課題と方法—小林直樹氏の著作を通して考える	三浦 永光	97
-----------------------------	-------	----

第二部

論壇エッセイ

総合人間学の課題—人間不在の時代に抗して	北見 秀司	103
進化と人間の利他主義—生命の樹と聖夜について	平山 朝治	111

一般研究論文

死刑は存置すべきか	菅原 由香	120
日本の届出婚主義と戸籍の拘束	遠藤 正敬	130
—近代国家の「結婚の自由」から考える		
人間には何故異質な他者が必要なのか—死の観点から	吉田 健彦	140

投稿報告

『3.11』から人間を考える	小山 芳郎	151
----------------	-------	-----

投稿エッセイ

「疑問」—なぜ強い者が弱い者を淘汰するのか	漆田 典子	160
-----------------------	-------	-----

会員による著書紹介		164
『総合人間学』バックナンバー		173
学会会則		175
投稿規定・執筆要綱		178

あとがき	宮坂 琇子	184
------	-------	-----
